



AlonAlonオーキッドガーデン

NPO法人AlonAlon
AlonAlonオーキッドガーデン
就労継続支援B型事業所
千葉県いすみ市岬町中原3863-61Taito style
胡蝶蘭の生産販売



活動内容

「社会課題をビジネスの力で解決する」という目標を掲げNPO法人を設立いたしました。そして現在解決を目指している分野が「知的障がい者の経済的自立」です。我々は障がい者の存在を社会課題とは捉えておりません。障がいのある人が働きづらい生きづらい社会の仕組みや制度設計が社会課題と捉え、それをビジネスの力で解決を図っております。

障がい者福祉の中で就労継続支援B型事業所（以下「就B」という。）の問題に着目いたしました。就Bは全国に約1万1千あり、そこで約30万人の利用者が働いており、月額平均工賃は約1万6千円です。

全国の就Bの1年間の工賃総額は約576億円です。それに対して全国の就Bの維持のために約4000億円もの国家予算が投じられております。また就B利用者の就労率は僅か1.5%です。

「はたして就B利用者の能力が低いのか？」という疑問に対して我々は完全に否定しております。工賃や就労率の低さは全て障がい者福祉の制度設計に問題があると考えております。



多くの就Bの作業場はテーブル1つで1日数百円の内職仕事を行っております。対して我々は今までで合計1億円を投資して胡蝶蘭温室を建設し栽培した胡蝶蘭を企業の祝花として販売をしております。これは就Bの報酬が主に利用者の数によって決定する制度設計であるため多くの就Bでは作業場に投資をしません。

また、利用者の就労によっても報酬は減ってしまうため多くの就Bは利用者を囲いこんでいる傾向が見受けられます。対して我々は利用者を数年かけて胡蝶蘭職人に育て上げ、祝花を沢山買う大企業に「障がい者雇用とお花代の経費削減が同時に実現できる貸農園サービス」を提案し利用者を就労させます。当然利用者の就労によって国からの報酬は無くなりますが、利用者の就労先企業から国の報酬を上回る売上（貸農園代・苗代・花の輸送代など）をあげることができま。

「利用者の経済的自立と就B事業者の利益が相反している」現在の制度設計をビジネスの力で解決する。我々は「利用者のハッピーの延長線上に我々の事業の成功を置く」ことを活動の基本としております。

コロナ禍の影響とその対策

昨年の緊急事態宣言で企業活動が止まりお花の注文のキャンセルが相次ぎました。そこで我々は個人向けに通常3本立て販売する胡蝶蘭を1本立・2本立に作り変え緊急販売を行いました。お陰様で約2000人の方からご注文を頂き1本も花を廃棄することなく乗り切ることができました。

今後の展開や目標

昨年より帝人グループ全ての祝花を障がいのある社員が生産する胡蝶蘭温室をプロデュースし、昨年12月より出荷が開始いたしました。また全国の大企業からも同様のオファーを受けて現在プロジェクトが進行しております。

今後は我々の胡蝶蘭の物流センターがある東京・横浜・名古屋・大阪・福岡周辺に（東京は千葉県に建設済）帝人のような企業温室を誘致し360億円と言われている胡蝶蘭マーケットの30%を障がい者が生産する社会を創りたいと考えております。



那部 智史
NPO法人AlonAlon代表